

音無瀧おとなしたきは来迎院らいがうゐんの東四町にあり、飛泉二丈余にして翠岩に添ふて南へ落る、蒼樹翁鬱として陰涼こゝろに徹し、毛骨悚然として近きがたし。

夫 木 小野川をののうへより落る瀧の名の音なしにのみぬる、袖かな 西 行